

われら小千谷市消防団

No. 39

団報 火の見やぐら

火事と救急は119番

発行 小千谷市消防団本部（広報部）

2023年3月号



文化財防火デー（平成町慈眼寺に於いて）

令和4年4月から令和5年3月まで主な活動内容

- | | |
|------------------|----------------|
| 4月・春の火災予防運動 | ・小千谷市地区別防災訓練 |
| ・辞令交付式 | ・部長訓練会 |
| ・新入団員研修及び幹部等訓練 | 11月・消防団備品点検 |
| ・一人暮らし高齢者宅防火訪問 | ・秋の火災予防運動 |
| ・信濃川河岸段丘ウォーク参加 | ・一人暮らし高齢者宅防火訪問 |
| 5月・観桜会 | 12月・車両交付式 |
| ・北魚沼地区支会訓練会 | 1月・消防出初式 |
| 6月・信濃川魚野川総合水防演習 | ・文化財防火デー |
| 9月・片貝まつり花火大会特別警戒 | 2月・甲種防火管理新規講習 |
| 10月・第1回副分団長以上会議 | 3月・第2回副分団長以上会議 |

消防長挨拶

令和4年4月より消防長を拝命しました村山でございます。

日頃、消防団の皆様には、防火広報をはじめ、管内の無火災、無災害に向けてご尽力頂き感謝申し上げます。また、その陰で、日頃から消防団活動にご理解をいただいておりますご家族の皆様にも御礼申し上げます。



さて、団報への記事掲載の機会をいただきましたので、消防団活動における安全管理対策として「消防長の知恵袋」を皆様へお届けいたします。災害活動では、危険を予測し、普段から自らの身を守る準備と行動が必要となるわけですが、今回は「建物火災／水利部署編」における留意事項についてお伝えいたします。

- 1 水利へ車両を誘導するときは、水利の位置及び停車位置を明確に示すとともに、ホース等の障害物を排除して行う。
- 2 吸管操作時
 - ア 水利部署時は、吸水活動、ホース延長、資機材搬送等の行動が競合し衝突する危険がありますので他の団員の行動に注意する。
 - イ 吸管を伸長するときは、ポンプ車にあっては吸管止め金具で指を挟まない。
 - ウ 吸管、吸管ロープにつまづかないよう注意し、通行人等との接触にも注意する。
 - エ 夜間、消火栓や防火水槽に部署し蓋を開放するときは、つまづきや防火水槽等への転落に注意する。
- 3 地下式消火栓の使用時
 - ア 消火栓の蓋を開けるときは安定した姿勢で行い、腰痛防止として消火栓フックを挿入して急激に持ち上げない。
 - イ 消火栓の蓋は、転落防止のため吸管伸長後に開け、蓋を移動するときは、障害とならない位置に置く。
 - ウ 消火栓の蓋を開けるときは、手足をはさまれないよう注意する。
 - エ 消火栓のスピンドルを開放するとき、急激に水が噴き出す場合があるので徐々に回

す。

オ スタンドパイプを使用する際は、スピンドルを開放する前に、吐水口に結合していることを十分に確認する。

カ 消火栓の蓋は、はずみで閉じる場合があるので、スピンドルドライバーは、吸管を離脱するまで抜かない。

キ 吸管結合後は、ロープ展張、注意標識板の掲示、照明器具等により転落防止措置をとる。

ク 作業中は、安全管理のため消火栓付近に人員を配置するか立入禁止区域とする。

4 防火水槽の使用時

ア 防火水槽の蓋は2名以上で呼吸を合わせ、腰を十分に落として持ち上げ、水平に移動させ安全な位置におく。

イ 防火水槽の蓋を持ち上げるときまたは降ろすときは、手足をはさまれないよう注意する。

ウ 吸管投入後は、ロープ展張、注意標識板の掲示、照明器具等により防火水槽への転落防止措置をとる。

5 夜間の水利部署時は、前照灯、作業灯、携帯用照明器具を有効に活用して明るく照らし、周囲の状況や足元を確認して行動する。

以上の行動危険がありますので、身を守る準備と行動の徹底をお願いします。なお、好評を頂ければ、「消防長の知恵袋（建物火災／ホース延長編）」を連載したいと考えております。

結びに、近年、災害級とも言える異常気象とともに、今年度においても村上市と関川村で発生した県北豪雨災害のように、全国各地で甚大な自然災害が頻発しました。このことは、当市においても、いつ何時、どんな災害が発生するか分からないということであり、災害から市民生活を守るには、消防団が持つ動員力と即時対応力の体制確保が必要不可欠であります。このため、来年度から団員の報酬引き上げと活動服の更新を行い、団員の確保対策に繋がるよう進めてまいります。引き続き消防団の皆様におかれましては地域の安全安心を守るという使命の下、地元地域に密着していただきながら、住民の信頼と負託にこたえて頂きたいと存じます。よろしく願いいたします。

春の火災予防運動

春の火災予防運動が4月1日(金)から7日(木)の期間で行われました。今年度の全国統一防火標語は『**おうち時間 家族で点検 火の始末**』です。連日各分団による防火広報が行なわれましたが、残念ながら今年も小学生による一日消防署長は中止となりました。

消防庁長官表彰並びに日本消防協会表彰

消防庁長官定例表彰では、細金靖分団長に永年勤続功労章が授与されました。

また日本消防協会定例表彰より、功績章が渡部藤夫副団長に、精績章が竹部伸一分団長、前5分団長廣井浩氏に、勤続章が小川雅弘副分団長、堀澤靖文団員、細金幸雄団員、広井幸栄団員、佐藤正美団員に授与されました。

受章された皆様おめでとうございます。

辞令交付式並びに幹部団員等訓練及び新入団員教育訓練

4月3日(日)、消防本部3階講堂に於いて消防団員辞令交付式が行われました。

初めに新たに昇任された幹部の皆さんへ、次いで新入団員の皆さん1人1人に富井団長から辞令が手渡され、新入団員を代表して第2分団第3部の斎藤陽士さんが緊張の中、宣誓書を読み上げました。



富井団長より辞令交付



宣誓書の読み上げ

新入団員は引き続き講堂にて座学を受け、終了後庁舎裏へ移動して規律訓練と機械器具

取扱訓練を受け半日の基本研修が終了しました。今後も基本を忘れず消防団活動に励んでもらいたいと思います。



また昨年はコロナ感染拡大防止のために行われなかった幹部及び女性消防団員の規律訓練も行われました。

感染拡大の影響により訓練や演習の中止が続き幹部の力量に差がついてしまったと実感する訓練となりました。



幹部の皆さん



女性部の皆さん

一人暮らし高齢者宅防火訪問

4月25日(月)、26日(火)、令和4年春の火災予防運動に伴う一人暮らし高齢者宅訪問が行なわれ、女性部員からは25日に森本団員が、26日に大淵分団長が参加しました。

今年は参加人数を絞っての開催となり、平成、船岡、稲荷、栄町を各日7世帯ずつ回り防火チラシの配布並びに防火指導等を行いました。

防火ウォーク

4月29日（金）、信濃川段丘ウォークへ参加し防火の広報を行いました。

消防団としては2年ぶりの参加となりましたがコロナの影響もあり、女性部から大淵分団長、石田部長、本団から渡部副団長、関分団長、佐藤分団長の5名と、残念ながら少人数での参加となってしまいました。

今年も道中でティッシュ、エコバック、消しゴムを配布し防火を呼びかけ、とくに消しゴムは子供たちに好評でした。

後半グズつく空模様でしたが、今年も無事に全員が完歩することができました。



観桜会

5月2日（月）、観桜会及び消防庁長官表彰記念祝賀会がグリーンパークにて行われました。会の開催は実に3年ぶりとなりました。この間、分団長や副分団長の顔ぶれも変わり、コロナ禍によりなかなか一堂に会することが出来なかったため、面識と親睦を深める良い機会となりました。



令和4年度北魚沼地区支会訓練会

5月8日（日）、北魚沼地区支会訓練会が行われました。

中級幹部訓練は東小千谷体育センター内に於いて研修が行われた後、会場を小千谷市防災公園へ移し、規律訓練を行いました。また、同公園内に於いてはラッパ隊も細金隊長を講師として訓練を実施し、後に合同訓練を行いました。



防災公園での訓練は初めてとなりましたが、広さもあり良い会場に感じました。さらに公園ということもあり、お年寄りや親子連れが多く訪れていたこともあって、地域の人々へ日頃の訓練をアピールも出来たのではないかと思います。

東小千谷体育センター前駐車場ではポンプ操法訓練が、選手を訓練部員が務め県審査員の消防士を講師に行われました。動作や流れをチェックしながら、指導のポイントなどを細かく確認しました。



機関員講習は各消防本部で行なわれました。小千谷市消防団は、本団技術部を講師として実施。基礎講座の後実技講座を行い、機材の操作やトラブル対策などを学びました。



今回の講習に参加した団員の皆さんには学んだ事を部の他の団員とも情報共有しつつ、是非今後の活動に活かしてください。

令和4年度信濃川・魚野川総合水防演習

6月5日（日）、燕市五千石地先（大河津分水路右岸 大河津可動堰上流）にて信濃川・魚野川総合水防演習が行われました。

今回は大河津分水通水100周年でもあり8市町から41の団体が参加し大規模な演習となりました。

小千谷市消防団からは第2分団、第7分団が参加し第2分団が改良積土のう工、第7分団が月の輪工を行いました。

第2分団 改良積土のう工



第7分団 月の輪工



当日は快晴で気温も上昇した中での工法となりましたが、両分団共に素晴らしい工法が出来ました。



QRコード



演習の様子は随時撮影され巨大なモニターに映し出され、同時にネット配信もされました。小千谷市消防団も富澤方面隊長のコメントと共に紹介されましたので、是非左のQRコードからチェックしてみてください。

北魚沼地区支会役員及び団幹部研修会

7月9日(土)、支会役員及び幹部の研修会が行われました。

今回は小千谷煙火興業・東日本旅客鉄道株式会社信濃川発電所の視察を行いました。

小千谷煙火興業では花火の様々な説明を受け、作業工程を視察。伝統的な作業に加え新たな技術を目の当たりにした他、実際に花火の玉にも触れることができ、そのサイズや質感を感じることができました。



発電所はまず「おじゃーる」で説明を受けた後、水力見学館へ移動。その後施設内を見学しました。日頃近くを通るもののなかなか近くでは見れない施設ですので、その迫力に感動を覚えました。皆さんも段丘ウォークの際見学できますので、是非参加されてみてはいかがでしょうか。



令和4年度火消会親善ゴルフコンペ

8月7日(日)、小千谷カントリークラブに於いて火消会親善ゴルフコンペが行われました。

15名の参加で18ホールストロークプレー、6ペリア方式で競技を行い、見事有馬警防課長が優勝を飾りました。



地区別防災訓練

10月15日（土）、小千谷市地区別防災訓練が東山小学校にて行われました。

当日は東山9地区の住民約140名、関係機関・団体合わせて220名にて災害情報伝達訓練から始まり避難所開設訓練、災害図上訓練、負傷者応急処置訓練等様々な訓練が行われました。



自主防災会、消防団及び防災関係機関の相互の連携を強化する有意義な訓練になったと思います。

また煙体験ハウスや起震車を利用した体験コーナーも開設され今回参加した団員も含めて多くの皆さんが貴重な経験をしました。



片貝まつり花火大会特別警戒

9月9日（金）、10日（土）両日、片貝まつり花火大会に係る特別警戒が、花火大会会場に於いて実施され、地元消防団と団本部、女性部が会場および周辺の警戒に当たりました。

部長訓練会

10月16(日)消防本部に於いて部長訓練会が行われました。

この訓練は本来予定していた小千谷市消防団総合演習が中止となった代わりに消防団員の士気、技能の維持を継続しなければならない状況から実施されました。

参加者を2班に分け、3階講堂にて消防本部佐藤次長より座学「現場指揮」の講義を、駐車場では「機関員としての基礎知識」の実技を交互に実施しました。

春の幹部訓練でもそうでしたが、今回の訓練でも各部長で力量の差が大きくあると感じました。



第1回副分団長以上会議

10月4日(火)19時より、令和4年度第1回副分団長以上会議が消防本部3階講堂に於いて行われました。

今回の会議も感染対策のため、参加人数を制限しての開催となりました。大塚市長、富井団長の挨拶で始まり、団員の処遇改善についてやポンプ操法競技大会の取組み等についての議題や下半期の消防団事業についてなどが話し合われました。



消防団備品点検

11月6日(日)午前、消防団施設点検が集合方式で消防本部にて行われました。

また備品点検と並行し消防本部3階講堂に於いて、各分団ごとに幹部の懇談会が行われ、体制や施設の問題点などが話し合われました。

備品点検は庁舎裏駐車場に於いて、積載資機材の点検やポンプの性能確認が行われました。点検と言えど作業をすることには変わりありません。安全のため作業時には必ず手袋の着用をお願いします。また、車両に輪留めをした部は私が見ていた限りでは1部のみでした。資機材を扱う上で、日頃から安全を意識した運用をお願いします。



秋の火災予防運動

秋の火災予防運動が11月9日(火)から15日(月)の期間で行われました。

今年度の全国統一防火標語は

『**お出かけは マスク戸締り 火の用心**』
です。

連日各分団による防火広報が行なわれましたが、新型コロナウイルスの影響により消防フェスティバルは規模を縮小した代替事業の開催となり、消防団からの参加はありませんでした。



一人暮らし高齢者宅訪問

11月21日(月)、22日(火)、秋の火災予防運動に伴い、一人暮らし高齢者宅への防火訪問が東小千谷地区を対象に実施されましたが、今回女性部は参加を見送りました。消防本部予防課職員らが防火チラシの配布や住宅用火災警報器の説明・点検などの防火指導を行い、うち2件では火災警報器の設置も行いました。

車両交付式

12月11日(日)、消防本部に於いて消防団車両交付式が行われ、第2分団第4部平沢へ積載車が交付されました。式では富井団長より交付書が江村部長に手渡され、第2分団高橋副分団長が宣誓書を読み上げました。



その後メーカー担当者より機材の説明が行われました。車両もポンプも機能をよく理解し、的確な運用・管理に努めてください。



臨時副分団長以上会議

12月6日(日)、消防本部3階講堂に於いて臨時副分団長以上会議が開かれました。

富井消防団長任期満了に伴う協議が行われ、後任に間野副団長を推薦することが決定されました。

消防出初式

1月8日(日)午前、令和5年消防出初式が行われました。

二荒神社にて無火災祈願の神事が執り行われた後、本町にて間野副団長指揮の下、徒歩部隊、車両部隊による分列行進が行われました。



分列行進後はサンプラザ駐車場にて横田訓練部長統括、広川訓練副部長指揮の下、一斉放水が行われました。

リハーサル時間の不足等、次年度への課題も見つかりましたが素晴らしい放水となりました。



サンプラザ大ホールで行われた式典では無火災町内への表彰が行われました。

今回は消防団協力事業所の加入がなかったのは残念でしたが無火災表彰の町内の皆さんは今後も継続をしてもらいたいと思います。



無火災表彰町内

100世帯未満（15年無火災）

西中（15年連続）	上片貝（15年連続）	蘭木（30年連続）	小栗山（15年連続）
市ノ口（30年連続）	芹久保（15年連続）	真皿（44年連続）	冬井（44年連続）

500世帯以上（3年無火災）

東栄（12年連続）

文化財防火デー

1月26日(木)平成町内の慈眼寺に於いて、文化財防火デーによる防災訓練が行われました。

当日は例年参加している小千谷幼稚園の園児が園内からの見学になるほどの雪による悪天候となりました。

訓練では本堂より火災発生を想定し避難誘導訓練、文化財搬出訓練が行われ、続いて第2分団土川ポンプ車と消防署による放水訓練が行われました。

その後自主防災会、園職員の方による消火器訓練を行い、最後に佐藤消防署長より講評を頂き終了となりました。



甲種防火管理新規講習

2月5日(日)、消防本部3階講堂に於いて甲種防火管理新規講習が行われ、25名の団員が受講し、全員が修了証を獲得しました。

この講習は平成15年から3年ごとに開催されており、一定の条件を満たした団員が受けることができます。職場によっては資格者を求めることがあるかもしれません。機会がありましたら是非受講してみましよう。

編集後記

少しずつ行事等が以前の様子を取り戻してきました。3年連続で年間1号のみの発行となってしまいましたが、次年度では記事内容のボリュームも考えると2号発行に戻れそうです。

また、紙媒体は残しつつも、時代に沿った情報発信の方法も併せて模索していかなければと感じています。

団報 火の見やぐら No. 39

発行 小千谷市消防団本部
事務局 小千谷市消防本部総務課内
住所 小千谷市城内3丁目1番9号

TEL 0258-83-0236

FAX 0258-82-0209

Eメール syobou-soumu@city.ojiya.niigata.jp